

J-PlatPatのTIPS

TIPS of J-PlatPat

独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財情報部長 **檀本 英吾**

PROFILE 1996年4月特許庁入庁、光デバイス等の特許審査・審判に従事した後、審判課審判企画室（課長補佐）、総務課情報技術企画室（情報技術企画班長）、特許情報企画室長等を経て、2015年4月から独立行政法人工業所有権情報・研修館に出向し現職

1 はじめに

特許庁と工業所有権情報・研修館（以下 INPIT）は、平成 27 年 3 月 23 日に、新たな特許情報（意匠、商標を含む）提供サービスとして、特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）を開始した。それに先立ち、特許電子図書館（IPDL）は、3 月 20 日をもって終了となった。

J-PlatPat の開始から既に半年以上経過していることから、多くの方は、インターフェースの刷新などによる変化にすでに慣れたことと思う。

本誌の読者は J-PlatPat のヘビーユーザーが多いと予想されることから、本稿では、J-PlatPat の全体機能の紹介ではなく、もしかしたら活用されていないかもしれない機能について以下に紹介する。

2 機能紹介

(1) ステップチャート

トップページから「特許・実用新案テキスト検索」などの機能を選んだ後に表示される画面の右上には「入力画面→結果一覧→詳細表示」又は「入力画面→結果一覧」と表示されている。これは、現在の操作段階を示すものであると同時に、前の画面に戻るリンクにもなっている。「詳細表示」から前画面を飛んで「入力画面」に直接戻ることも可能で、その際には検索条件が入力されている状態の「入力画面」に戻ることもできる。

ブラウザのボタンやマウスの「戻る」ボタンで前の画

面に戻ると、うまく戻れないなどの不具合が出る可能性があるため、ステップチャートのリンクにより戻ることをお勧めする。なお、たとえば「詳細表示」内での画面の移動も極力画面内のボタンを使うことをお勧めする。

入力画面 → 結果一覧 → 詳細表示

(2) 論理式検索

「特許・実用新案テキスト検索」では、入力ボックスによる検索に加えて論理式入力による検索が可能となっている。

シンプルな検索であれば、入力ボックスの方が分かりやすいため、多くの方は入力ボックスを使って検索していると思われる。しかし、入力ボックスでの検索では、どのような検索をしたのかをメモすることが煩雑である問題がある。

そこで、「論理式に展開」機能を使うことをお勧めする。入力ボックスを使って検索条件を入力した後に「論理式に展開」ボタンをクリックすると、検索内容が論理式（検索式）となって表示される。この論理式をコピーしてテキストとして保存しておくことで、検索条件のメモとなる。後に同じ条件で検索したい場合には、保存した論理式を論理式の入力ボックスにペーストして検索すれば良い（なお、検索条件に公開日などが無い場合には、検索対象が異なること、及び、公開日などを含めて同じ条件で検索してもデータベースの修正等により検索結果が異なる場合があることに注意）。

(3) 同義語の活用 (J-GLOBAL を活用)

J-PlatPat では、「特許・実用新案テキスト検索」および「コンピュータソフトウェアデータベース (CSDB) 検索」において、特許・実用新案の公報等と J-GLOBAL のデータベースを同時に検索することができる。

この J-GLOBAL と同時に検索をした結果を表示する「結果一覧」において、結果の一覧がタブで選択できるようになっているが、一番右に「J-GLOBAL (同義語)」というタブがある。このタブを選択すると、検索で使った単語の類義語が表示される。類義語による検索の必要性の検討など、検索条件の再考に役立つと思われる。



(4) 番号照会における複数番号入力

「特許・実用新案番号照会」、「外国公報 DB」、「意匠番号照会」、「意匠公知資料照会」、「商標番号照会」、「審決公報 DB」、「審決速報」、経過情報の「番号照会」、経過情報の「最終処分照会」では、入力ボックスへの各種の番号入力での照会ができる。

これらの照会機能では、一つの入力ボックスに対して文献番号をスペース区切りで複数入力できる。たとえば、スペース区切りで複数の公開番号のテキストを用意しておくことで、複数文献番号の入力を簡便にできる。逆に、複数の番号照会するために入力ボックスに複数の番号を入力した際には、簡単にコピーができ照会条件の保存が簡便となる。

なお、一つの入力ボックスに入力できるのは同じ種別の文献に限られること、入力ボックスに入力できる文字数に制限があること、及び、一度に照会できる文献数に制限があることに注意が必要である。入力及び照会の制限については、それぞれの機能におけるヘルプを参照されたい。

(5) 出願番号、審判番号による照会

特許・実用新案番号照会、意匠番号照会及び商標番号照会では、出願番号又は審判番号による照会が可能となった。

これまでは、公報番号が分からなければ公報の番号照会ができなかったため、出願番号又は審判番号しか分からない場合には、番号索引照会で公報の番号を確認した上で、公報を照会する必要があった。J-PlatPat では、特許・実用新案番号照会、意匠番号照会及び商標番号照会でも出願番号及び審判番号で照会できるようになり、また、どの番号で照会しても結果一覧において関連番号(出願番号、公開番号等)が表示されるため、番号索引照会の機能も兼ねている(そのため J-PlatPat には「番号索引照会」は無い)。

(6) 図面スクリーニング

特許・実用新案や意匠の「詳細表示」では、デフォルトで「項目表示」タブが選択されている。この「項目表示」タブが選択されているときは、画面の右側に図面が表示される。この図面の表示部の左右部の矢印ボタン又は下部の図面番号リンクをクリックすることで、比較的容易に図面を確認することができる。



3 おわりに

今後も、J-PlatPat の利便性向上や照会可能な情報の増加を目指していく予定である。

ユーザーの皆様の暖かい声を励みに、特・実・意・商の情報提供の基盤としての役割をしっかりと果たすサービスとしたいと考える。

